

# 平成23年3月期 第2四半期決算 説明会

2010年11月15日

阪和興業株式会社

Copyright 2010 Hanwa Co., Ltd. All Rights Reserved

1

## 第2四半期決算のポイント

- 本年度第2四半期決算は、足下では調整局面にあるものの全体的な景気水準の回復などから、売上高は前年同期比21.7%増の6,471億72百万円となりました。利益面でも、販売収益の回復を反映して、第2四半期純利益は前年同期比54.2%増の39億31百万円となりました。
- 通期業績は、以下を見込んでいます。

売上高	1兆3,330億円	(第1四半期での予想値比 +140億円)
営業利益	130億円	(第1四半期での予想値比 - 30億円)
経常利益	120億円	(第1四半期での予想値比 - 20億円)
当期純利益	68億円	(第1四半期での予想値比 - 16億円)
- 配当については、中間配当を6円、期末配当6円を予定しています。

(単位:百万円)

	当四半期 (累計)	前四半期 (累計)	増減比
売上高	647,172	531,946	+21.7%
売上総利益	21,519	20,387	+5.6%
販管費	14,771	14,679	+0.6%
営業利益	6,748	5,708	+18.2%
営業外損益	612	△569	-
経常利益	7,360	5,139	+43.2%
特別損益	△564	-	-
税引前純利益	6,796	5,139	+32.2%
法人税等	2,827	2,698	+4.8%
少数株主損益	38	△109	-
四半期純利益	3,931	2,550	+54.2%

・売上高は、需要家の活動水準の上昇により、取扱量が増加。前年同期比21.7%の増加

・利益面も販売収益の増加に伴い、増益に。

営業利益 +18.2%  
経常利益 +43.2%  
四半期純利益+54.2%

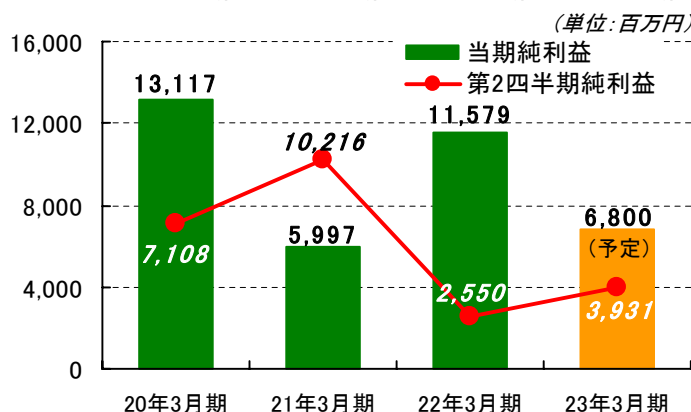
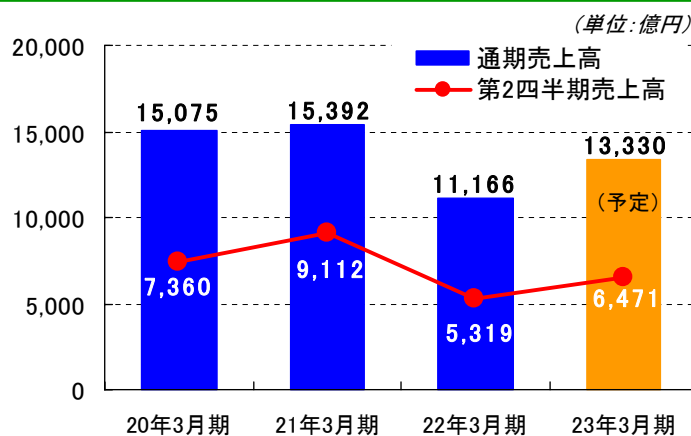
・一株当たり純利益は、18円96銭(+6円77銭)

# 業績推移(連結)

21年3月期下期に急減した需要は、前期から引き続き回復基調。

売上高、当期純利益ともに、前年同期比では増加。

足下では需要の調整局面入りにより、市況・販売量ともに停滞感が出ている。



(単位:百万円)

	当四半期末	前期末	前期末比
総資産	471,290	443,444	+6.3%
流動資産	366,136	333,166	+9.9%
固定資産	105,154	110,278	△4.6%
負債	364,857	336,589	+8.4%
Net有利子負債	189,898	150,909	+25.8%
純資産	106,433	106,855	△0.4%
株主資本	111,226	108,542	+2.5%
評価・換算差額等	△5,489	△2,373	+131.3%
少数株主持分	696	686	+1.5%

- ・総資産は、売上債権やたな卸資産の増加により、6.3%の増加
- ・有利子負債が資金需要の回復により増加した結果、ネットDERは1.8倍となる。
- ・純資産はその他有価証券評価差額金のマイナスにより、ほぼ横ばい。自己資本比率は、22.4%。
- ・一株当たり純資産は、510円10銭となる。

# キャッシュ・フローの状況(連結)

(単位:百万円)

	当四半期 (累計)	前四半期 (累計)	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△30,532	43,346	△73,878
投資活動による キャッシュ・フロー	△6,560	△8,111	+1,551
財務活動による キャッシュ・フロー	24,973	△35,727	+60,700
現金及び現金同等物 期末残高	11,878	34,606	△22,728

- ・営業活動CFは、売上債権やたな卸資産の増加により、305億円の支出。
- ・投資活動CFは、投資有価証券の取得に係る支出により、65億円の支出。
- ・財務活動CFは、借入金やCPによる調達増により、249億円の収入

## 当第2四半期累計

(単位: 百万円)

	売上高	セグメント利益 (経常利益)	利益率
鉄鋼事業	336,859	4,567	1.4%
金属原料事業	59,980	1,784	3.0%
非鉄金属事業	27,256	705	2.6%
食品事業	40,885	1,018	2.5%
石油・化成品事業	149,401	712	0.5%
報告セグメント計	614,383	8,789	1.4%
その他	60,748	434	0.7%
合計	675,132	9,223	1.4%
調整額	△27,960	△1,862	—
PL計上額	647,172	7,360	1.1%

Copyright 2010 Hanwa Co., Ltd. All Rights Reserved

7

## 鉄鋼事業の状況

(単位: 百万円)

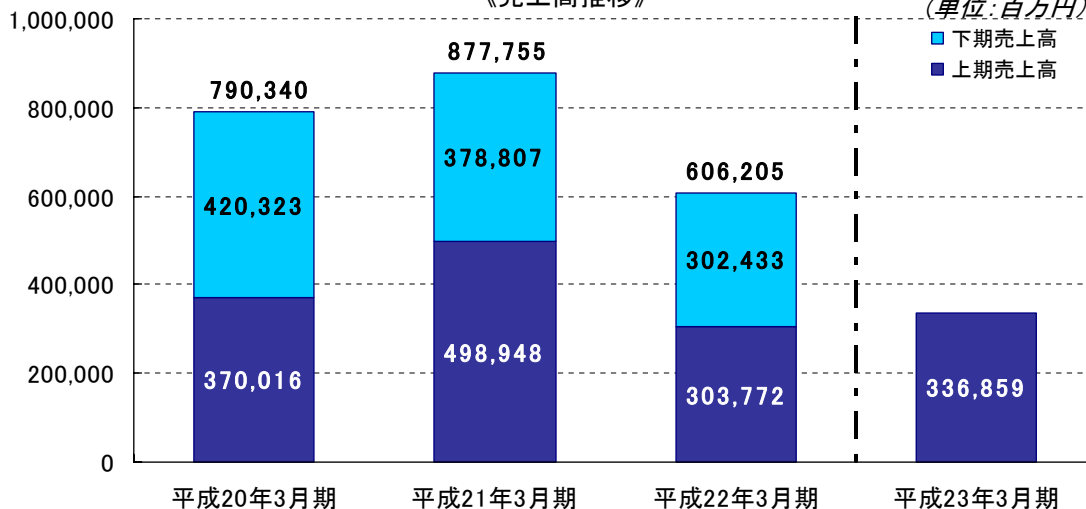
売上高	セグメント利益	利益率
336,859	4,567	1.4%

足下の需給動向は停滞しているものの、前期に比べ鉄鋼需要が回復したことから収益水準は上昇。

先行きは市況の下落や建築需要の低迷、輸出市場での価格競争激化により、不透明。

《売上高推移》

(単位: 百万円)

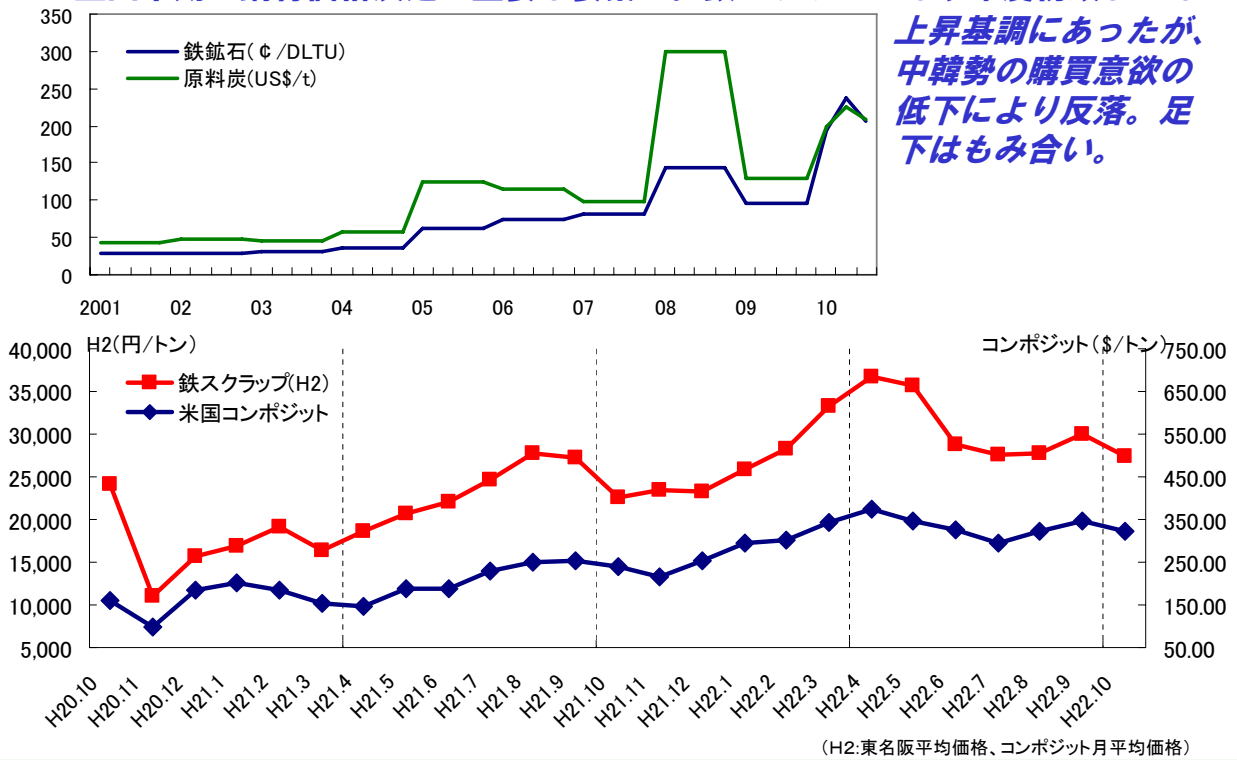


※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

Copyright 2010 Hanwa Co., Ltd. All Rights Reserved

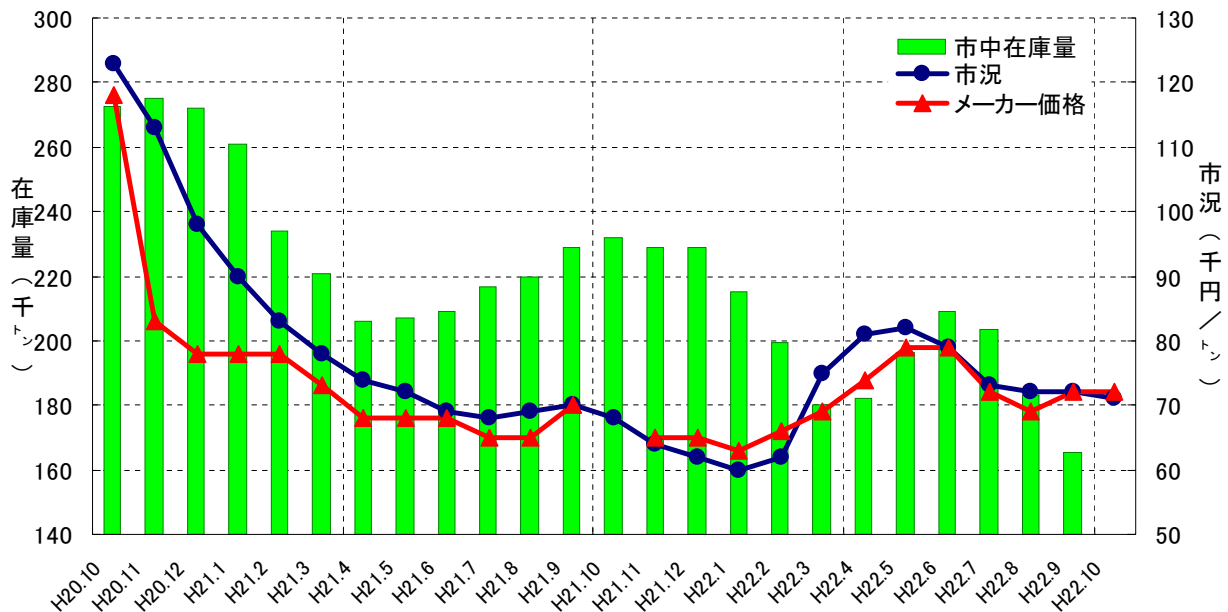
8

鉄鉱石、原料炭価格が四半期毎の改定になり、中国でのスポット価格動向が翌四半期の鋼材価格決定の重要な要素に。鉄スクラップは今年度初頭までは上昇基調にあったが、中韓勢の購買意欲の低下により反落。足下はもみ合い。



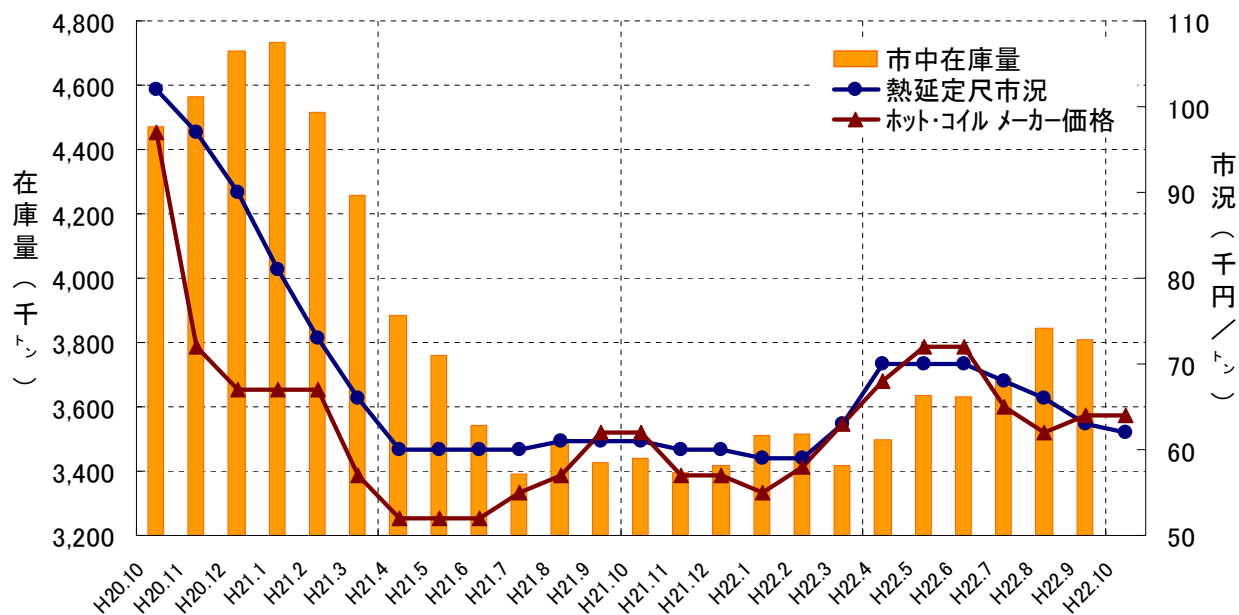
# H形鋼 市中在庫量と市況の推移

原料価格の上昇を織り込んで、2010年初頭から市況上昇に転ずるも、建築需要の低迷から荷動きは悪く、その後、市中在庫の増加とともに市況は下落に転じた。



(在庫:ときわ会調べ、価格:鉄鋼新聞)

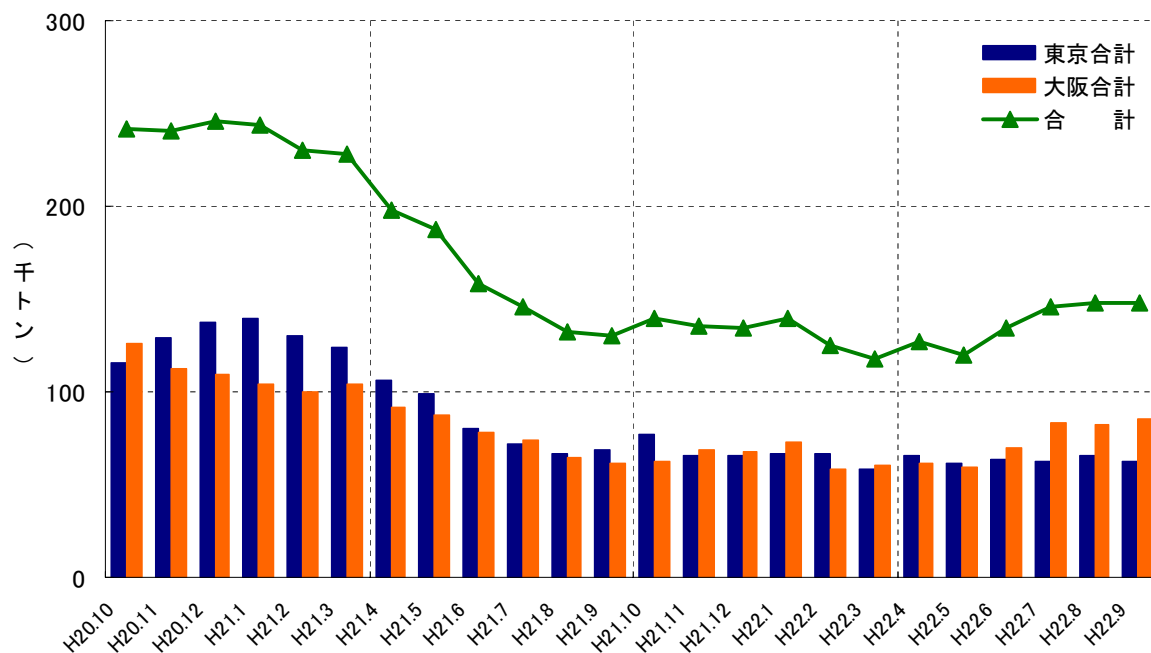
H形鋼同様、原料価格の上昇を背景に値上げに転じたが、中国の調整局面入りとともに息切れ。国内スポット市場の需要も弱く、在庫の増加を招いた。



(在庫:日本鉄鋼連盟、価格:鉄鋼新聞)

# 輸入鋼材 岸壁在庫の推移

輸入鋼材の入着実績は、国内需要の低迷により低水準にて推移していたが、今期に入り漸増傾向。岸壁在庫も若干増加傾向にある。

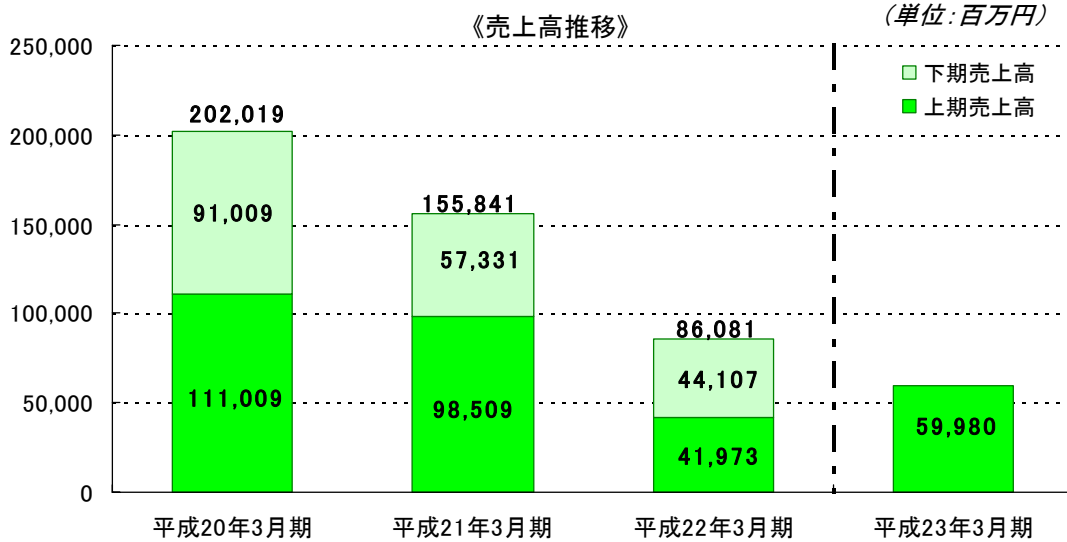


(阪和興業株式会社調べ)

(単位:百万円)

売上高	セグメント利益	利益率
59,980	1,784	3.0%

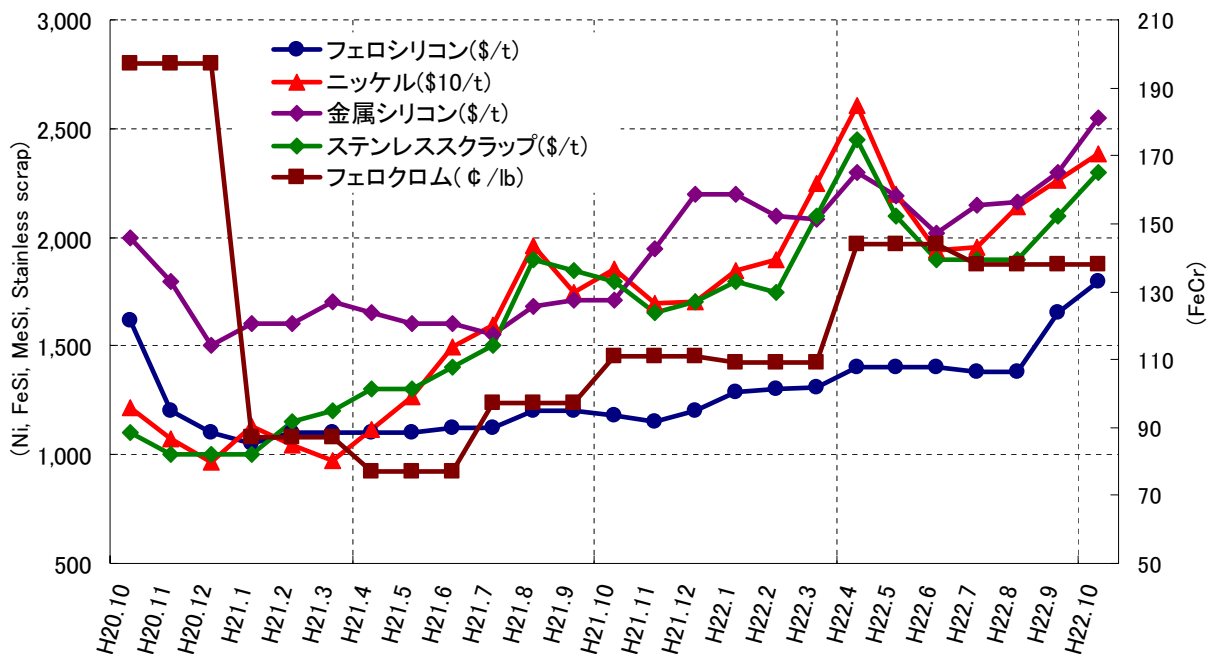
上期前半は鉄鋼やステンレス生産が堅調であったが、後半は中国の需給調整によりステンレス生産の水準が低下。ニッケルやステンレス屑などステンレス原料の需要が減少した。



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

# 金属原料市況の推移

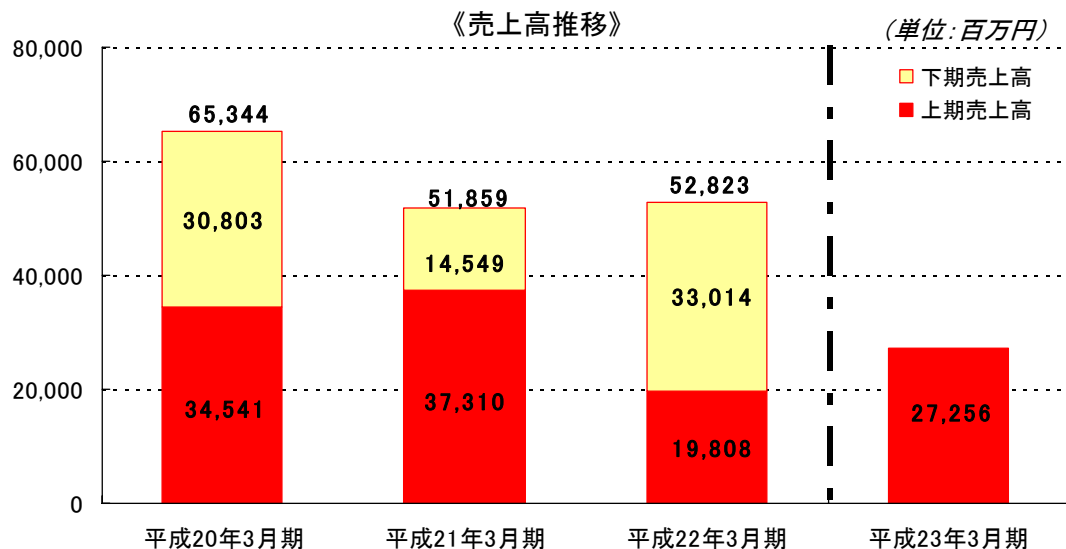
鉄鋼やステンレス生産の回復により、ニッケルや合金鉄の価格も上昇。その後の需要の調整入りにより価格ももみ合いとなっているが、中国の洪水や電力規制などにより足下再び上昇している。



(単位:百万円)

売上高	セグメント利益	利益率
27,256	705	2.6%

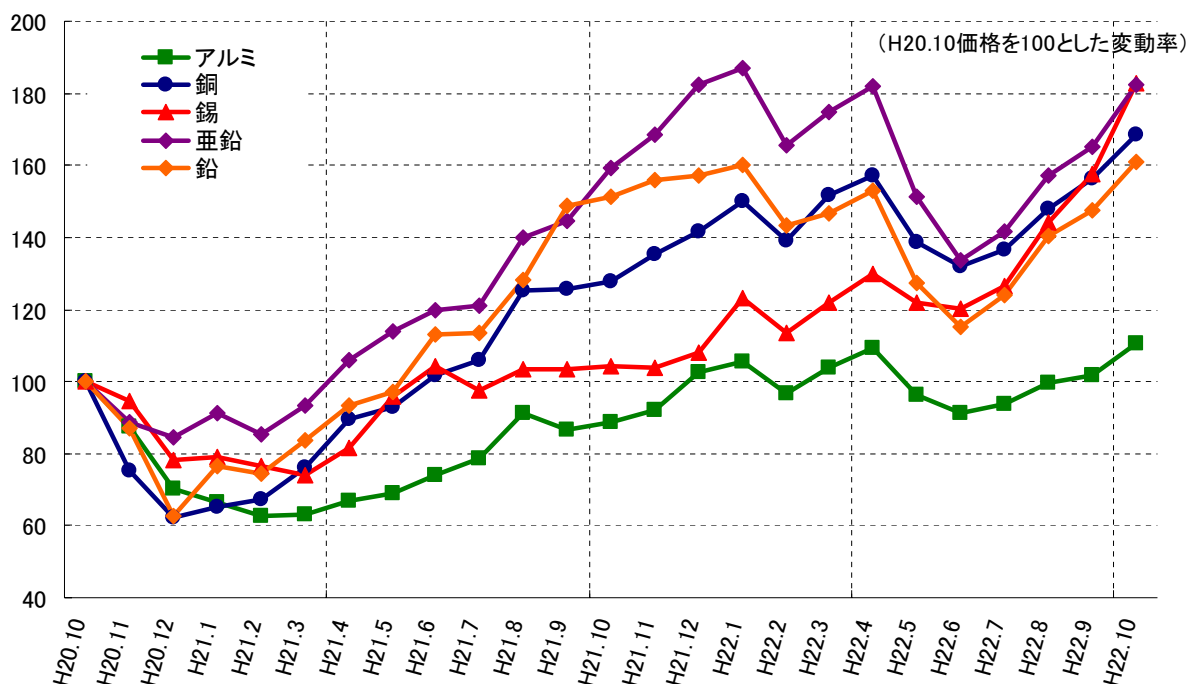
銅やアルミの需要は旺盛に推移し、増収になったものの、スクラップ発生  
の減少で、仕入コストが上昇。収益性は低下した。



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

# 非鉄金属市況の推移

LME価格は中国需要の回復と先高見込みによる投機資金の流入などで上昇基調にあったが、金融不安の再燃により下落。足下は投機資金の再流入により上昇局面に。



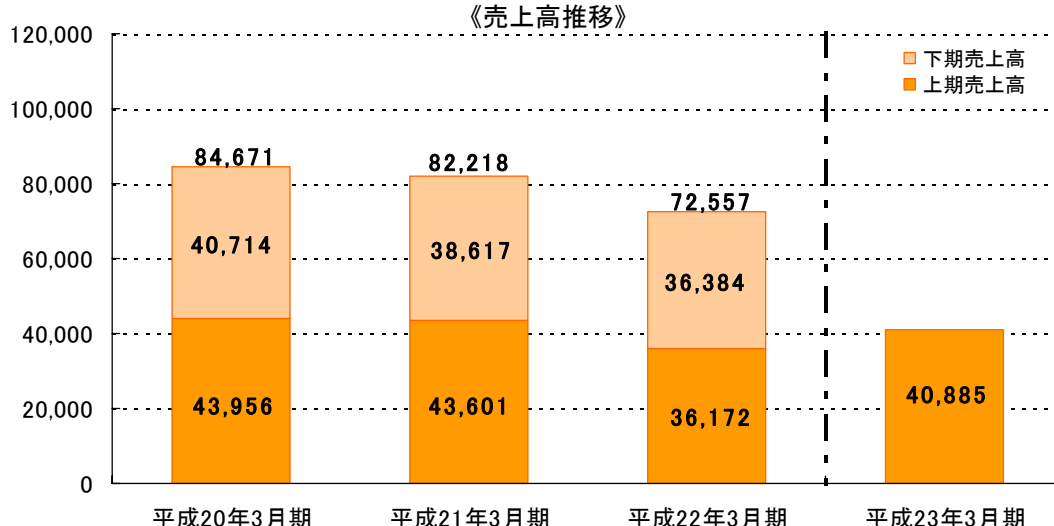


(単位:百万円)

売上高	セグメント利益	利益率
40,885	1,018	2.5%

長く国内需要の低下で価格、販売量ともに低水準にあったが、今上期は国内在庫水準の低下や一部魚種の不漁などで需給が引き締まり、堅調な収益を上げた。

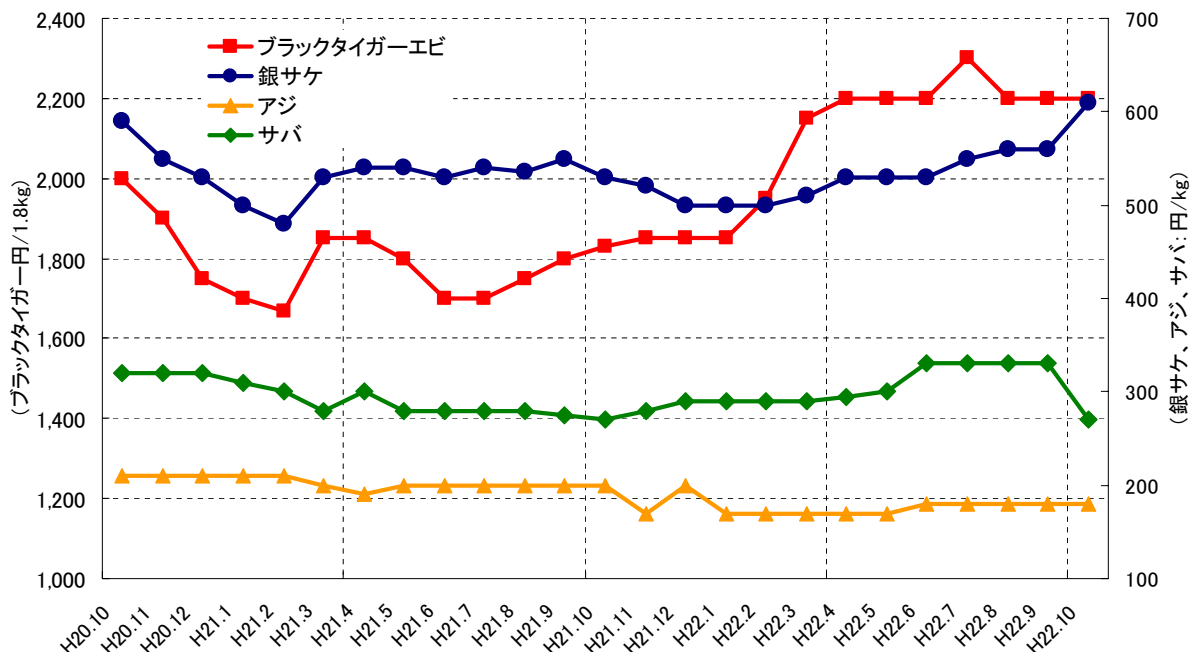
(単位:百万円)



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

# 冷凍水産物市況の推移

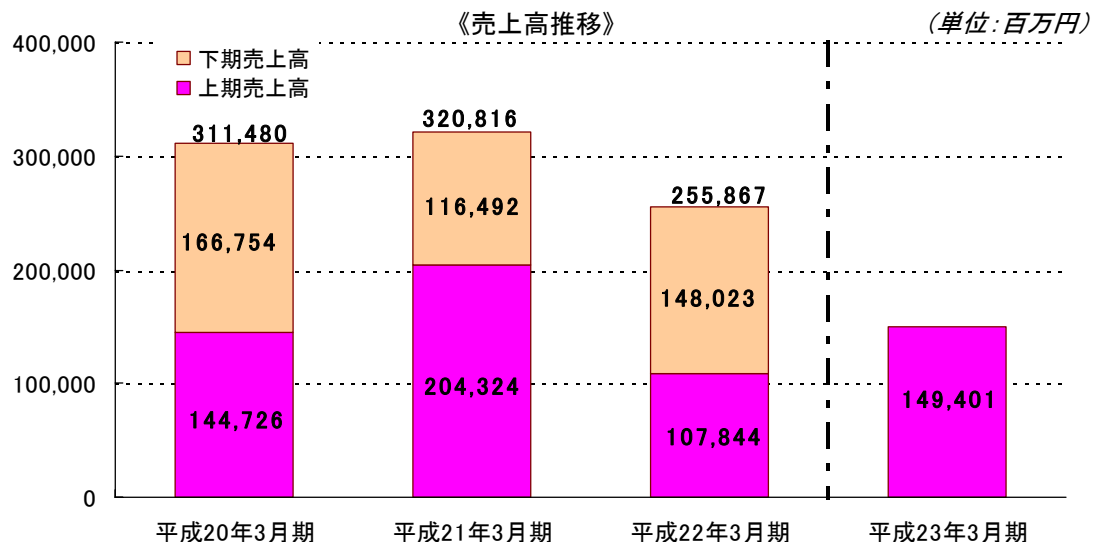
需要は伸びていないものの、海外での漁獲量の低下などにより価格は概ね堅調に推移。特にエビは養殖の不調に加え、米国の買い意欲の強さもあり、強含みで推移。



(単位:百万円)

売上高	セグメント利益	利益率
149,401	712	0.5%

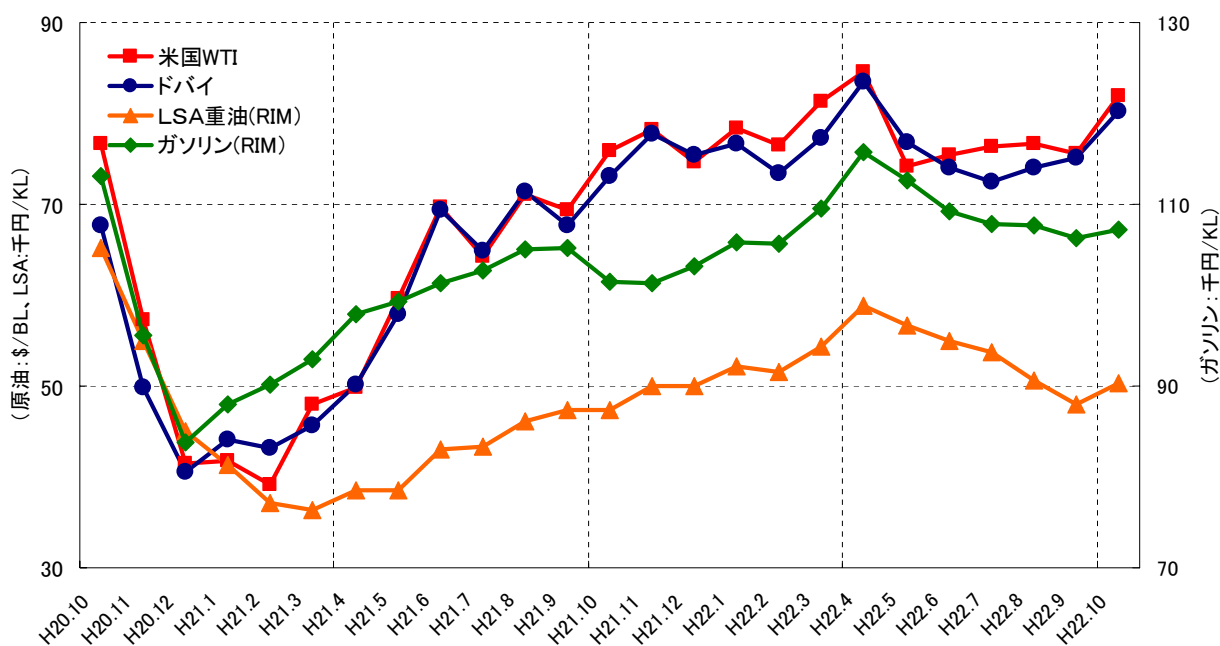
産業用燃料やバンカーオイルの拡販はできたものの、元売業界の再編や価格政策などの影響もあり、利益のとりにくい展開となった。



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

## 原油・石油製品市況の推移

原油価格は上昇基調にあったが、非鉄金属と同様に、今期初頭に金融不安の再燃により下落、その後は景気指標や需要予測の動向に反応した激しい値動きとなっている。



第2四半期までは概ね期初見込みの水準で推移しているが、下期は相次いで終了する景気奨励策の需要への影響や海外需要の動向が不透明。市況や需要が下ぶれする可能性を考慮し、見通しを修正している。

配当は安定配当を重視し、中間配当6円を実施予定。年間配当も12円に据置。

(単位:百万円)

	第2四半期累計	通期予想	平成22年3月期
<b>売上高</b>	<b>647,172</b>	<b>1,333,000</b>	<b>1,116,628</b>
<b>営業利益</b>	<b>6,748</b>	<b>13,000</b>	<b>11,420</b>
<b>経常利益</b>	<b>7,360</b>	<b>12,000</b>	<b>9,412</b>
<b>当期純利益</b>	<b>3,931</b>	<b>6,800</b>	<b>11,579</b>
	<b>年間</b>	<b>中間</b>	<b>期末</b>
<b>1株当たり配当金</b>	<b>12円00銭</b>	<b>6円00銭</b>	<b>6円00銭</b>

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。